

第35回 東京弁護士会人権賞 受賞

北洋建設株式会社 代表取締役 小澤 輝真 さん



木村英明2020年度副会長から表彰状を授与される小澤輝真さん(右)

採用した出所者の9割5分が辞めてしまうという厳しい現実。それにもかかわらず、小澤社長はこれまで私財を投じて出所者の採用を続けてこられました。出所者の社会復帰のために就労支援が重要であることは多くの方の共通認識だと思いますが、それを実践することは容易ではありません。脊髄小脳変性症という難病を発症し、余命宣告を受けながらも、出所者の就労支援に熱意をもって取り組まれている小澤社長の前向きな姿勢に、深く感銘を受けました。札幌の本社を訪問し、お話をお伺いする貴重な機会を得たことに深く感謝しております。

聞き手・構成：小峯健介

プロフィール◆北洋建設株式会社(代表取締役 小澤 輝真) 1974年に設立された建設業を目的とした株式会社(本店：札幌市)。前身の工務店を1973年に創業して以降、長年にわたり刑務所の出所者を積極的に雇用してきた。その採用人数は累計で600名を超える。創業者のご子息である小澤輝真氏は、1993年に同社に入社し、2014年には代表取締役役に就任。進行性の難病である「脊髄小脳変性症」を発症しており、余命宣告されながらも、出所者の就労支援に熱意をもって取り組んでいる。

—— 東京弁護士会人権賞の受賞おめでとうございます。

ありがとうございます。うれしいですね。

—— ご経歴を拝見しますと、いろいろな資格をお持ちなのですね。

はい。趣味が資格集めなんです。88個ありました。

—— 何か印象深いもの、面白いものがありましたら教えてください。

ない、ない。だいたい調理師とか、潜水士とか、あと一級船舶とか。

—— 2012年にお父様と同じ脊髄小脳変性症と告げられたとのことですが、医師から病名を告げられたとき、どのようなお気持ちでしたか。

いやあ、ついに来たかと思いましたよね。ついに来たかと。

—— ついに来たかというのは、どういうことでしょうか。

ばあちゃんも、親戚にも結構あったので、ああ、そうだと思いますよ。姉ちゃんもそうです。

—— 病名の宣告を受けて余命10年と告げられて、どのようなお気持ちだったのでしょうか。

普通はもうそこでだめになっちゃうんだけど、逆に、僕はできることをやろうと思って、いろいろなことをやるようなことを考えて、やるようにしましたね。

—— この病気というのは、将来的にも根治するのは難しいのでしょうか。

たぶん無理でしょうね。

—— 医学が進歩し、何かよい治療法が開発されることを本当に期待しています。

いや、まったくないですよ。

—— 北洋建設では障害を持った方も積極的に採用されているとのことですが、ご自身や親族に病気の方が多いということも影響しているのでしょうか。

それはありますね。僕も自分が障害を持っているから、よく分かるということもありますよね。

—— 脊髄小脳変性症という病気に罹ってしまったからこそ感じるものがあれば教えてください。

この病気になったからこそ、だめじゃないんだよ、こういう人間もいるんだよ、ということを教えてあげられますよね。そして、頑張れ、お前も頑張れよと。病気だからこそできることというのがあるので、やっていますよね。

—— 北洋建設は1973年（昭和48年）にお父様の代に創業されて、これまで約半世紀にわたって累計で約600名近くの前受刑者の方を受け入れてきたとのことですが、小澤社長の代になってから採用されたのは何名ぐらいでしょうか。

僕になってからは300名ぐらいじゃないですかね。

—— 今いる従業員さんの中で、前受刑者の方は何名ぐらいでしょうか。

今、全部で60名ぐらいいて、うちだいたい20名です。

—— 採用される方は、どのような罪名の方が多いのでしょうか。

窃盗、覚せい剤が多いです。重大犯罪はいないです。だいたい2～3年の刑が多いです。

—— お父様の代から積極的に出所者を採用されてきたということですが、小澤社長には抵抗感はなかったのでしょうか。

いや、僕はもう何も分からなかったの。みんな僕にとってみたらいい人ばかりですよ。

—— 北洋建設では前受刑者の方とそれ以外の方で、待遇に差はあるのでしょうか。

まったく一緒。全部一緒。

—— 全国の刑務所に従業員募集のポスターを貼って、受刑者から手紙が来ると全てに目を通され、指一本でパソコンを操作して返信されているということですね。

僕は字が書けないので、来たら必ずパソコンで手紙を書きますよ。遅れずにやりますね。

—— 大変ではないですか。

いやあ、もうすごく大変ですよ。ものすごいですから、数が。

—— 実際に刑務所まで足を運んで受刑者の方と面接をされているとのことですが、これも大変ではないですか。

すごく大変ですよ。

—— 受刑者の方の面接は、どのような点に重点を置いているのでしょうか。

いや、別に、やる気があるかなぐらいですかね。やれるのかな、やる気は大丈夫か、という程度。

—— やる気があるかどうかというのは、どうやって見極めるのでしょうか。

やる気があるかどうかは、もう聞くしかないですよ。だいたい分かるんですよ。もう何百人も会ったから、たいてい分かるんですよ。

—— 実際に受刑者の方を目の前にされて、どういったあたりに更生や立ち直りの可能性を感じられるのでしょうか。

去年までは入れてみなきゃ分からないからと、とにかく入れていたんだけど、実は今年から変えました。今年から、面接する前に、（刑務所の）刑務官や、（保護観察所の）保護観察官に見てもらってます。

—— 裏返しますと、昨年までは社長の目だけで判断していたということでしょうか。

そうです。ひどかったんですよ。9割5分、いなくなっていましたからね。

—— 9割5分の人が辞めてしまうにもかかわらず採用を続けてきたというのは、小澤社長を突き動かしている原動力は何だったのでしょうか。

まず入れてみなきゃ分らないので。頑張ってくれる人は頑張ってくれるし、だめな人間はだめだと言って。まず入れてみようというのがありましたね。とにかく入れてみよう。

—— 残念ながら、実際には9割5分の方は辞めてしまうのですよね。心が折れたりしないのでしょうか。

いや、もう何百人も、500人もいるんだから、そんなことやってられないですよ。そんなのもう面倒くさい、どうでもいい。

—— 自分の土地などの私財を売って支援に充てているとお聞きしましたが。

お金がね、国はくれないんですよ。飛行機代とかに使うと、もうあっという間になくなっちゃいますよね。

—— 私財を投げ打って対応することには限界を感じているとのことですが。

もう2億円、3億円使っています。

—— お父様の代から私財を投じていたのでしょうか。

してないです。僕になってからです。

—— 元受刑者の従業員の方と接するに当たって、何か特に心掛けていることとか、気を付けていることはありますでしょうか。

出所者だからどうかというのは一切ないです。もう、出てきている以上、罪を償っているのです、そこら辺の、差別と言ったらおかしいですけど、それは一切ないです。普通に接します。

—— 出所者の更生、社会復帰、再犯防止のためには、何が重要であるとお考えでしょうか。

何でしょうね。普通の一般企業がいっぱい使ってあ

げることですよね。日本という国は、まず悪いことをしたら使わないんですよ。だから使ってあげる会社が多ければ多いほどいいと思うんですよ。

—— とにかくまず働き先が見つかることが重要ということですね。

そうですね。働けないと。

—— 国も助成制度を用意しているようですがまだまだ不十分で、民間事業者の善意頼りみたいな印象がありますが、いかがでしょうか。

僕もよくそれは大臣に言っているんですよ。手紙を送ったり、ばんばんやっているんですよ。

—— 国に対する要望はありますでしょうか。

助成金をまず増やしてほしいですよ。そうしないと会社はどこも何もやらないですよ。

—— 「職親プロジェクト」というのは日本財団がやっている、小澤社長も関与されているとのことですが、これは具体的にはどのような内容でしょうか。

その名の通り「職の親」になるという。要は出所者の親になってやれよという、簡単に言うとそういう制度なんです。日本財団がお金を出してくれてやります。

—— 北洋建設が以前からやってきたことを広めていくようなイメージでしょうか。

そう。もともとうちがやっていたのを、たまたま飛行機の中で見て、それで、何だ、こんなうちでやっているじゃないかといって、それで連絡を取ったのがきっかけです。

—— では、もともと北洋建設とは別にあった職親プロジェクトに、途中から知って協力をするようになったということでしょうか。

はい。大阪のお好み焼きの千房の社長さんと、こういうのがありまして。

——「協力雇用主制度」とは別の制度なのでしょうか。

はい。協力雇用主制度は、要は国でやっていることなので。日本財団職親プロジェクトはまったく民間なので。昔、お金を出したのは日本財団だけ。国は出さなかったの。

国は全部、やっぱり後手後手なんですよ。民間がもう、先、先にいって。

—— 協力雇用主に対する「刑務所出所者等就労奨励金」*1というのは、上限額も決まっています、十分な金額ではないともお聞きしましたが。

基本、半年間月8万円で、48万円。

うちはこれまで1回しかもらったことがないですよ。いろいろな決まり事があって、要はいかに少なくしか出したいと、満額出したいんですよ、やっぱり。

—— 北洋建設のように理解のある事業主さんが世の中に増えればいいんですけど、そう簡単ではない中で、支援の広がりをつくるためには何が必要であるとお考えでしょうか。

いや、うちみたいな会社がいっぱい増えればいいんじゃないですか。ちゃんと物も買ってあげる会社がいっぱいであればいいと思いますよ。

—— 事業主にとって出所者を採用することのメリットはどのようなものでしょうか。

あんまりない。メリットが全然ないですね。

—— 当初は周囲から北洋建設は犯罪者を採用しているんだと反対があったみたいですね。

昔は犯罪者がいるんだと言われてたんだけど、今はもう普通にそうやってやっています。

—— 社会全体のイメージが変わらないと、ほかの会社も出所者を積極的には採用できないですよ。

採ってくれないんですよ、誰も。

—— 「あの人は刑務所帰りだ」みたいに社会の偏見があると、本人が立ち直ろうと思ってもなかなか難しくなってしまうと思うのですが、そこをはねのける工夫はありますか。

いや、こういう会社が増えればいいんですけど、言った通り、何って悪くないんですよ。そんなに悪はないんですよ。だから普通に入れればいいんですよ。問題ないですよ。

—— 昨年（2020年）7月から、法務省の就労支援拠点「コレワーク」*2の北海道がスタートしたと聞きました。

コレワークの業務としては、今まで各刑務所が独自にやっていたのを、北海道、東北、関東とか、全国を8ブロックに分けて、そこを一括して管理しようということになった。

今までは刑務所ごとをお願いをしていた交通費の精算を、コレワークは8ブロックごとに一括でやってくれる。すごく楽になりました。

—— 弁護士、弁護士会に向けて何かメッセージはありますか。

刑事事件でうちを使ってください。うちが雇うので裁判所に陳述書を出します。お気軽にご連絡ください*3。

静岡では、検察が執行猶予の求刑をしたことがあります。

—— 本日はありがとうございました。さらなるご活躍を祈念しております。

* 1：協力雇用主に対する刑務所出所者等就労奨励金とは、保護観察の対象となった人などを雇用し、就労継続に必要な生活指導や助言などを行う事業主に対して支払われる奨励金。<http://www.moj.go.jp/content/001146724.pdf>

* 2：コレワーク（矯正就労支援情報センター）とは、前科があるという理由などから仕事に就く上で不利になりがちな受刑者等の就労を支援するために設置された法務省の所轄する国の機関。http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00070.html

* 3：北洋建設株式会社 北海道札幌市東区北20条東12丁目6番15号 電話：011-741-5555（代表）